

幼年教育の必須教材

ドイツの教育者、フレーベルが1838年に考案した「恩物」と呼ばれる教育的遊具は、保育カリキュラムを研究する上で欠かせないアイテム。積み木の原形に当たり、さまざまな形のパーツが子どもの創造力を育むのに効果的という。「授業では昔の遊び方を紹介するとともに、学生たちに自分ならどのように使うかを考えさせます」



スナフキンでティータイム

研究室の書棚には、学生からプレゼントされたコーヒーカップがいくつも並ぶ。花柄が多いのは、「私がシンプルなデザインを好むので、もっと女性っぽい物も使ってほしい」という意味があるようです。ちなみに一番のお気に入りには花柄ではなく、スナフキンのカップ。ニヒルなたたずまいに引かれるそうだ。



父の溺愛でメタボ気味の犬

いつもバッグに入れているのが、妹の家で飼っているトイプードルとポメラニアンの写真。妹と同居する90歳の父は2匹にメロメロという。「昔は室内犬が嫌いだったのに、今はかわいくて仕方がないようです。餌以外にも食べ物を与えているらしく、「帰省するたびに2匹とも丸くなって、抱きかかえるとずしりと重いです」。



先生に質問!

愛読のきっかけは転倒

推理小説が好き。最近愛読している松岡圭祐の作品との出会いは2年前、実習先の幼稚園で竹馬から落ちて股関節を骨折した際、妹が差し入れてくれたのがきっかけ。「入院中はすることがないからずっと読んでいました。今では新刊が出るたびに買っています」



エアバッグ付きの椅子

「腰にやさしい椅子がないから?」と研究支援課にリクエストし、今年3月に研究室に入れてもらった。背もたれの腰が当たる部分に付いたエアバッグに、骨盤の位置を安定させる機能があるとか。「おかげで長時間のデスクワークもずいぶん楽になりました」と大満足の様子。



橋川喜美代 教授 幼年教育コース

大阪府出身。昭和50(1975)年、大阪教育大学を卒業。平成9(1997)年、大阪市立大学博士課程前期修了。上越教育大学講師、鳴門教育大学教授などを経て、23(2011)年から現職。主な研究分野は保育カリキュラム。幼稚園や保育所、認定こども園の保育形態を考察し、乳幼児期にふさわしい生活環境について研究している。授業は「幼児教育課程・保育計画論」(学部)、「幼年期のカリキュラム論と保育・教育方法」(修士課程)などを担当。

A 学生たちが子どもと遊んでいる様子を見ると、型にはまっていると言っか、みんな同じような遊びをしています。常日頃から子どものことを意識しながら、さまざまなものに触れることで、保育者としての引き出しが増え、個性が磨かれていくと思います。

Q 保育の道に進みたいと考えている学生にアドバイスは?

A 教育の質が高いレベルで一定することが挙げられます。幼稚園では園児が帰った後に園内研修をしますが、保育所は保育時間が長いので、幼稚園ほど十分に時間を取れません。しかし、幼稚園と保育所が合併してできた認定こども園ならば、保育者が増えることで、研修の機会が平等に与えられるようになります。

Q 認定こども園が教育面にもたらすメリットは?

A 長年、保育カリキュラムを研究してきた、両親が共働きかどうかで幼稚園か保育所に振り分けるのではなく、地域の同年代の子どもは同じ場所で保育を受けるのが理想的だという考えに行き着きました。ですから、平成18(2006)年の認定こども園制度のスタートはとても喜ばしいことでした。幼保一体化を進める自治体の依頼で、今年度から幼稚園教諭と保育士に対して講師を務めており、幼稚園、保育所双方での実地研修などを指導しています。

A 長年、保育カリキュラムを研究してきた、両親が共働きかどうかで幼稚園か保育所に振り分けるのではなく、地域の同年代の子どもは同じ場所で保育を受けるのが理想的だという考えに行き着きました。ですから、平成18(2006)年の認定こども園制度のスタートはとても喜ばしいことでした。幼保一体化を進める自治体の依頼で、今年度から幼稚園教諭と保育士に対して講師を務めており、幼稚園、保育所双方での実地研修などを指導しています。

Q 先生は認定こども園の設置を推奨されていると聞きます。